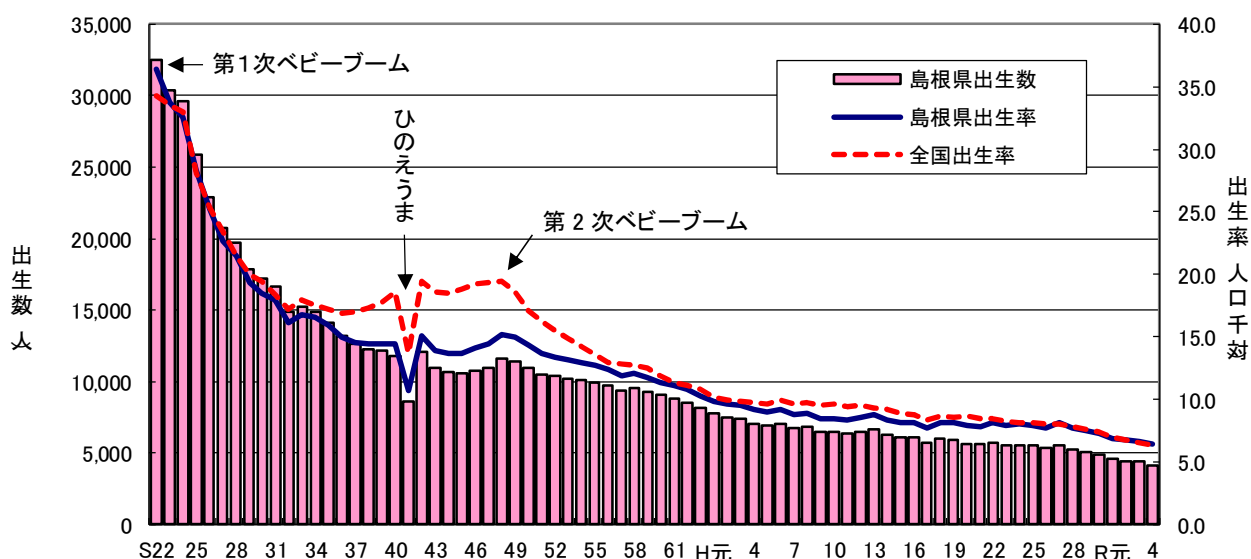


2 出生

(1) 出生数・出生率

令和4年の出生数は4,161人で、前年の4,415人から254人減少し、出生率（人口千対）は6.4（全国第16位）で、前年の6.7を下回った。出生数、出生率ともに昭和46～49年の第2次ベビーブーム以降、ゆるやかな減少傾向が続いている（図1）。

図1 出生数・出生率（人口千対）の年次推移



出生数を母の年齢（5歳階級）別にみると、20歳～24歳、45歳～49歳の各階級が前年よりわずかに増加し、その他の各階級では減少した（表2）。

表2 母の年齢（5歳階級）別にみた出生数

母の年齢	出生数				対前年増減		
	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	2年－元年	3年－2年	4年－3年
総数	4,594	4,473	4,415	4,161	△ 121	△ 58	△ 254
～14歳	－	－	－	－	－	－	－
15～19	33	37	35	13	4	△ 2	△ 22
20～24	417	393	341	344	△ 24	△ 52	3
25～29	1,308	1,304	1,246	1,224	△ 4	△ 58	△ 22
30～34	1,593	1,508	1,568	1,448	△ 85	60	△ 120
35～39	1,015	976	984	894	△ 39	8	△ 90
40～44	225	245	231	227	20	△ 14	△ 4
45～49	3	10	10	11	7	0	1
50歳以上	－	－	－	－	－	－	－

出生順位別にみると、令和4年は前年より全順位で減少した（表3）。

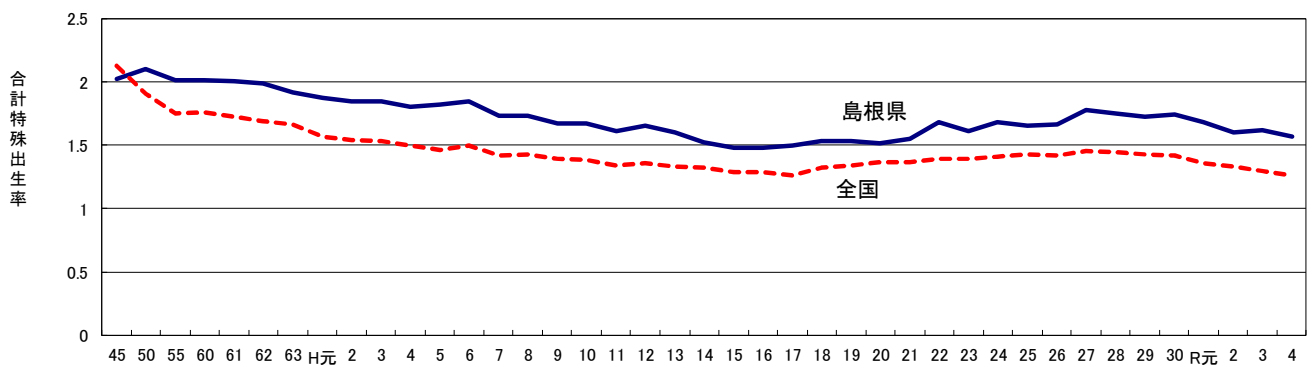
表3 出生順位別にみた出生数の年次推移

出生順位	出生数				対前年増減		
	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	2年－元年	3年－2年	4年－3年
総数	4,594	4,473	4,415	4,161	△ 121	△ 58	△ 254
第1子	1,827	1,888	1,811	1,685	61	△ 77	△ 126
第2子	1,679	1,563	1,556	1,505	△ 116	△ 7	△ 51
第3子以上	1,088	1,022	1,048	971	△ 66	26	△ 77

(2) 合計特殊出生率

令和4年の合計特殊出生率は1.57であった。全国と比較すると、昭和50年以降一貫して島根県が上回っており、令和4年の順位は全国第4位である(図2)。

図2 合計特殊出生率の年次推移



○算出方法

※1 ※2
「(母の年齢別出生数) ÷ (年齢別女性人口)」の15歳から49歳までの合計

※1 (母の年齢別出生数) = (分子): 「人口動態統計」(厚生労働省)

※2 (年齢別女性人口) = (分母): 「推計人口」(総務省、ただし国勢調査年は国勢調査における日本人人口)

母の年齢（5歳階級）別出生率の昭和45年以降の推移を見ると、年により多少の増減があるものの、概ね20歳代では低下傾向、30歳代では上昇傾向にある。令和4年は20～24歳、30～34歳、40～49歳が前年と同様の数値となっており、それ以外は下回っている(図3)。

図3 母の年齢(5歳階級)別出生率の年次推移

